

式辞

本日、卒業される本科生188名、専攻科生40名の皆さん、誠におめでとうございます。昨年度の卒業式は新型コロナウイルス感染症への対応で中止になりました。卒業生や保護者の皆様の心情を思い、残念な気持ちでいっぱいでした。本年度は何としてでも実施したいと思っておりました。感染対応がまだまだ必要で、保護者、後援会、来賓、在校生の皆様のご列席が叶わなかったことは大変残念ではありますが、本日ここに令和最初の卒業証書授与式並びに専攻科修了証書授与式を挙行できますことは、教職員一同にとって大きな喜びでございます。

さて、卒業の節目を迎えられた皆さん、奈良高専での学生生活を思い出してください。高専教育では卒業生の質を保証しています。それ故、皆さんは日々の学習や授業の単位を取得することに大変努力されたことと思いますが、その成果としてエンジニアとして活躍するために必要な知識や技術を身につけられたことと思います。課外活動や寮生活を通して人間的に大きく成長されたことでしょう。私自身も、高校時代の部活動経験が今の自分を支えていると感じることがよくあります。

最後の学年はコロナ禍にあり、学習面、生活面、交流関係などでいろいろな支障があり、心身のストレスを感じておられたと思います。辛い試練ゆえに、若くして遭遇した学生の皆さんの心中察するに余りあります。

一方で、全国国立51高専、在学生約55000人の感染状況を見ますと、日本全体の感染率の数分の1程度、しかもキャンパス内での感染がないと聞いております。高専生の感染予防意識の高さや適切な行動の成果と思っております。この貴重な体験、そして奈良高専での全ての経験がこれから生きていく上で大切な財産となることでしょう。また、一緒に過ごした仲間たちは一生の宝となることでしょう。

本日、皆さんが受け取った卒業証書・修了証書は卒業生個人の努力によって得られたことはもちろんですが、その陰には、ご家族の方々、友人、教職員、そして社会の多くの人々による数々の支えがあったことを忘れてはいけません。「卒業」の節目に受けた恩に対して感謝してください。感謝の心を持つことは自分自身のためです。なぜなら感謝は人を心穏やかにするからです。受けた恩に感謝し、時代を超えた繋がりとして恩を新たな人や社会に送ってください。

国立高等専門学校は、第二次世界大戦後の高度経済成長期に、地域産業を支える実践的な技術者養成機関として設立されました。そして2022年度に60周年を迎えます。人間で言えば還暦です。この間、ものづくりを取り巻く環境は大きく変化してきました。とくに近年のグローバル化の進展は、生産拠点の海外移転のみならず、開発、流通、消費、あらゆるところに波及しております。また、急速なデジタル化により ICT、IoT、AI、ロボ

ットなどの技術開発が進んでいます。そして、サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させたシステムにより経済発展と社会的課題の解決を両立する、新たな未来社会 Society 5.0 が提唱されております。

新産業を牽引するエンジニアには、機械、電気、電子制御、情報、物質化学という分野別の専門知識・技術だけではなく、文化的な素養を含めた幅広い視野、豊かな人間性、コミュニケーション力などが必要です。グローバル化や異分野技術の融合複合化により、産業の場には多様な担い手が集まっており、立場や価値観の違いを尊重した上で、共通の目標のために協働することができれば、シナジー効果で新たな価値を生み出すことができます。私が期待するエンジニア像は「和によるイノベーション創出ができる未来志向のエンジニアリーダー」です。チャレンジ精神を大切に、自分のペースを守りつつも、仲間と協力して社会変革を引き起こしてください。

皆さんがエンジニアとして活躍している間にも科学技術がどんどん進歩し、人がつくったものが人の能力を超えるまで突き進むことは確実です。まさに「人による人へのチャレンジ」です。私は、科学技術は常に人を幸せにするものでなければいけないと思っており、そのためには技術者や研究者の倫理観が極めて重要です。卒業生の皆さんはチャレンジ精神とともにこのことを忘れずにいてほしいと思います。

私はときどき山に登ります。山では全ての人々が平等で、自分の身体と心だけが頼りです。冷静に判断し、身体をコントロールしながら最後まで安全に降りることが課されています。心身を鍛え直すよい機会です。山の魅力は一つとして同じ山がないことです。同じ山でも見る角度によって形が異なります。どの山に登っても、その山の持つ素晴らしさに出会い、感動させられます。人も同じだと思います。皆さん一人一人個性が違って、それぞれに素晴らしいものを持っていて、お互いになくてはならない存在です。自信を持って自分の人生を歩んでください。

さて、最後にお願いしたいことは、学業を修めて高専を卒業したこと、奈良高専卒業生としての誇りを忘れないでほしいということです。卒業生、教職員ともにお互いまた出会える機会があります。そのときに奈良高専の卒業生としての誇れる出会いをしていただけることを私は切に願っています。

皆さんのこれからの輝かしい人生を祈りつつ、令和2年度卒業式の式辞といたします。

令和3年3月19日
奈良工業高等専門学校長
後藤景子